NCKU部活動紹介

撮影部

撮影部は毎週木曜日にクラブ授業の一環として活動をしており、成功大学内の撮影に対して興味がある人が集まっています。撮影の技術を学んだり、台南の文化や芸術について話し合ったり学んだりすると共に写真撮影を行い、記録に残しています。また、撮影部では昔ながらのフィルムカメラを用いた撮影とその写真の現像も行っています。これら全ての活動は学生が自主的に行っています。今回の交流では本紙作成の協力と交流中の写真撮影を行い、親睦を深めました。

柔道部

今回の国際交流の部活動交流ではKITとNCKUの柔道部が交流しました。27日、28日、29日、30日の4日間の交流を行いました。KITの柔道場やトレーニングルーム、練習機材などを初めて見たNCKUの部員は、「トレーニング施設や機材が充実していてすごい」と言っていました。27・28・29日の三日間はKITの部員とNCKUの部員が共同練習を行いました。30日には試合を行い、お互いの能力を高め合うなどして、技術を磨き合いました。

今年の伝統料理

10月28日にKITとNCKUの伝統料理体験が行われました。今回の伝統料理体験で制作した日本の伝統料理と台湾の伝統料理を紹介します。

日本

ちらし寿司
ちらし寿司は、酢飯に多種類の具材を合わせて作る寿司の一種です。

味噌田楽
味噌田楽は、こんにゃくや茄子などを串に刺し、味噌を塗りつけて、焼いた料理です。

台湾

愛玉-あいぎょく-
アイギョクシの果実から作られるゼリーのデザートです。

米糕-みがぅ-
米糕とは竹筒に餅米を入れ蒸した物で甘辛い味付けの伝統的な台湾料理です。

Kouhou@ch
～ ver.国際交流 ～

発行　学友会
編集　広報委員会
発行責任者　小玉 美咲
編集責任者　丸岡 浩紀

国際交流　スケジュール

記念すべき、15周年目の国際交流は10/25～11/1の8日間で行います！

10月

- 25(火) ●小松空港に到着
- 26(水) ●ウエルカムパーティー ●開会式
- 27(木) ●第1回カンファレンス ●15周年企画/柔道部練習 ●キャンパス見学
- 28(金) ●学長訪問 ●第2回カンファレンス ●伝統料理体験
- 29(土) ●工大祭ブース準備/柔道部練習
- 30(日) ●工大祭ブース運営/柔道部試合
- 31(月) ●フェアウェルパーティー ●金沢観光

11月

- 1(火) ●小松空港から台湾へ

工大祭
台湾booth in 27号館

工大祭二日目、27号館1階で国際交流台湾ブースを開設し、お菓子とポストカードの販売、ミニゲームを営業しました。お菓子は台湾の名産物を三種類、ポストカードはNCKUの撮影部の手作りの物を販売しました。ミニゲームでは輪ゴム鉄砲を使い、紙コップを倒すことで得点を競い合いました。

一日だけの開催でしたがたくさんの来場者に来ていただき、一人で多くのお菓子を買ってくださる方もおり、ポストカードのクオリティの高さに驚かれている方もいました。ミニゲームも来場者の子供たちに人気で、輪ゴム鉄砲を自分たちで作っていました。

にぎわう台湾ブース

学友会会長 吉野倫央 N.K「JAW」 × 学生会会長 廖宇祥 N.K「DAVID」

各団体をまとめている陽気な代表。今回の交流での体験と感想、15年目として今後の展望について聞いてみた。

ひとまず、感想を…。

―今年度の交流の感想は？

J 15年間と長期で続けられてとてもうれしいです。今年も個性的な方々が来てくれて楽しく交流できました。

D こちらこそ、15年間継続できて国際的な友情が生まれたと思います。私は日本に来るのは初めてですけど日本の人や街並みは素晴らしいと思います。日本人のマナーなど見習って、私たちもimprove（改善）していきたいです。

J 僕たちも新しい価値観や言葉を知ることができるので今後も続けて行きたいです。

↑工大祭オープニングで国交組挨拶!!

学長訪問。印象は？

―学長訪問をしましたがどうでしたか？

D まず学長訪問があると知ったときは座談会を想像しましたが挨拶のみだけだったので残念です。NCKU側のみんなも質問を考えていて、私も学校の管理についてなど聞いてみたかったです。

J そうですね。僕が1年の時、成功大學側の学長訪問はミーティングの形でしたね。そして、いろいろお話ができたので今後こちら側でもそのようなことしていきたいです。

―学長の印象は？

D 初めの印象は親切な人という感じです。短い訪問だったので詳しくはわかりませんが、その間でも学生の組織について考えており、思いやりがあるように感じられました。

J 大澤学長は、今年度から学長に就任されたからDAVIDが他大学の学生代表として初訪問したことになるね。

D 本当ですか。それはすごくうれしいです。

両校、祭を讃えあう。

―工大祭の雰囲気はどうでしたか？

D まずNCKUの学園祭は短期間で1日のみです。また、KITは規模が大きく、いろいろなステージがあり、大学全体を利用しているところがすごいです。やはり、大学からの支援も多いのですか。

J そうですね。その理由としては地域密着型のスタイルの学園祭だからです。また工大祭は工大祭実行委員会が1年間かけて計画を立てているのでこの規模が可能になっています。また、OBからの支援などもあり、多くの来場者を得ています。しかし、実際の運営の中枢は学生のみで行っています。

D そうなのですね。学生が主体な点は、こちらも反映していきたいです。

―工大祭の企画で面白いと思ったものはありますか？

D 私としては写真部や漫画研究会の展示が素晴らしいと思いました。部活動が運営している展示というのがこちらでは無いのでこのような繋がりが作りたいです。また、プロジェクションマッピングも興味がありました。

J 4年間工大祭に関わってきて、販売物で揚げバナナなんて珍しいものを販売するところが存在して興味があったかな。

今後の目標について

―今年で15周年です。今後の目標は？

D 未来の交流について、この経験を次の学生会に引き継いでいきたいです。また、交流の幅を広げるために部活動などの団体だけでなく、一般の学生や教職員など多くの人々にこの交流の価値を広めていきたいと思います。

J 最近の交流は、決まったことを繰り返している節があるように思うので、新しい交流をしていくべきだと思います。なので、学生同士の交流という部分をもっと強く推していけるといいと考えています。クラブはクラブと交流、学生会と学友会と交流といった形になっているのでその壁もなくしたいと思います。

↑フェアウェルパーティ、15周年記念トロフィーを贈呈

聞いてみた！

KITとNCKUの活動の違い！

正直、15年目といっても聞くことはそんなに多くはありません。そこで、活動の内容を教えてもらいましょうではないか！インタビュー後の暇な時間を使ってかる～く雑談した。

大きな違いとしてはKIT側は1つの組織があるのみだが、NCKU側は3つの組織から成り立っている。しかし、基本的に目指す目標は同じであり、学生の大学生活の向上を目指していて、学生から大学側への意見を進言していきたいと考えています。各組織の違いを大まかに右にピックアップしてみました！

KIT(学友会)の場合

・学友会という組織にすべての団体が所属。
・組織人数は140人程度。
・活動団体の管理と援助を主にしている。
・学園協議会という場で学生の声を大学に進言している。

NCKUの場合

・学生会、クラブ連合会、学科連合会の3つの組織で学生生活向上を目指す。
・組織人数は170人程度。(代表の人数)
・各組織が学生生活や部活、学科などの活動を支援している。
・学生議会で学生の声を聞いている。

学長訪問

28日金曜日午後1時30分より、成功大學一行が益谷記念室で大澤敏学長を表敬訪問しました。初めに大澤学長から歓迎の言葉をいただき、その後成功大學の朱朝煌先生が挨拶をされました。そして両大学代表の紹介と挨拶を行いました。柔道部の主将が女性であることに大変驚かれ、感心されていました。その後、両校からの贈呈品を交換しました。

↑贈呈品を交換している大澤学長(左)と朱朝煌先生(右)

MESSAGE from member for KIT & NCKU

第15回国際交流企画の中で、両大学代表12名から、今回の交流の感想などのコメントをいただきました。

クラブ連合会　会長 蔡丞軒

今回の国際交流は自分にとって、交流の意義を再認識することができたと思います。挨拶させていただいた時に願った言葉、忘れる事なく、果たせるように頑張りたいと思います。最後に、一息休憩と再出発する勇気を与えてくれたこの8日間に心より感謝申し上げます。

学生会　会長 廖宇祥

この交流が15年も続けられるのは、たくさんの人々の努力の結果です。初めて交流に参加して、KIT側の心遣いに感動しました。互いの良い面を学び、次回KITが台湾に訪れる時もKITの皆さんにこの感動を味わってもらいたいです。そして、この国際交流次を次の15年へ繋げてほしいです。

学友会　会長 吉野 倫央

第15回国際交流を終えて、感じたことは、NCKUの学生たちは英語だけではなく日本語も話せたので、伝えたいことを自らの口で伝えてました。しかし私は会長として伝えたいことを自らの口で伝えられませんでした。この経験より言語の大切さを私はより深く学びました。

学友会　副会長 長沼 諒

私は今回で3回目の交流で、今回も忘れられない大切な経験となり、年々交流の輪が広がっていると感じています。来年度は、16回目の交流となります。この交流が、来年度以降も続くように、NCKUへKITのメンバーを連れていきます。今度はKITが台湾の文化を知る番です。

執行秘書 陳翌綸

肌寒いと思った金沢でしたが、帰る時の心は温かさに満ちていました。日本に来て、文化交流や学校見学をしましたが、両校の絆を維持しているのは、年々この交流を通じて築いた両校の生徒たちの友情だと気付きました。交流が終わっても連絡は取り合えます。この交流は今後も受け継がれて欲しいです！

学生会　外務部長 鄭芮竹

名残惜しいと思わせたのはKITの皆さんの優しい気配りでした。私たちの立場に身を置いて物事を考えて、理解し配慮してくれてました。穏やかな社会をつくるには、互いに理解し、互いに支えることが必要だと思います。KITの皆さんの優しい心遣いは自分にとって一番の収穫で、一番台湾に持って帰るべきものだと思います。

柔道部　部長 柯宜伶

この交流は、日本に関する様々な知識を深めてくれました。日本の大学の学園祭に参加するのも心躍る経験でした。クラブ交流も、本場の柔道を体験でき、基礎体力訓練やトレーニングの強度と量など、NCKU柔道部の不足する点も見つかりました。交流を通じて、多くを学び、多くの友達も作りました。

広報委員会委員長 小玉 美咲

私は主に15周年企画の方に参加させていただきました。企画を通じてNCKUの方々と活動できて良かったです。特に写真部の方とは一緒に学内を撮影に行ったり、お互いが撮影した写真を交換したりと活動の中でも文化の壁を越えて交流することができたので、自分の中で意味のある交流になりました。

野良動物志願隊　学生代表 邱淑絹

KITの皆にとてもお世話になって、誠にありがとうございます。交流期間で、目的地に着くと、常にKITの皆が迎えてくれて、毎日活動が終わった時も、必ず私たちを見送ってくれます。お持て成しする方は負荷が多く、授業もあって、大変だと思います。でも、KITの皆はいつも笑顔で私たちを接してくれて、本当に感激です。学友会の皆さんに感謝の言葉しかないです！

Project Internet　学生代表 張閔筑

交流に参加するのは初めてですが、手厚いおもてなしを受けて、KITの皆には本当に感謝しています。KITは自習スペースが充実していて、図書館が綺麗で、学食の食べ物も美味しくて、快適な学校生活だと思います。KITの皆にとって忙しい時期なのに、それでもわざわざ時間を割き、もてなしてくれて、本当にありがとうございました。

NCKU側　総責任者 蕭宇綸

去年もらった感動を皆に伝えたい気持ちでNCKUのメンバーを金沢に連れて行きました。KITのおもてなしを感謝し、盛り上がった交流を見て本当に嬉しかったです。皆が人と人を繋いでいる感動を確実に受け取ったと思います。この感動こそが学生たちを交流活動に引き連れ、両方の縁を作ったと思います。この感動が今後の交流を遠い未来へ導いてほしいです。

KIT側　交流活動代表 松村 隼人

今回の交流を終えて、改めてこの交流から多くのものを得られたと思います。責任者として多くの企画を成し遂げたことや言葉が通じなくても別れを惜しむほど親しくなれたたくさんの台湾の友人たち、挙げればきりがないほどの財産ができました。後輩たちもこの企画を通じてたくさんのものを得て欲しいと思います。

金沢工業大学

KANAZAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

金沢工業大学は、学生が過ごし、学びやすいようにさまざまな施設があります。勉強面では、24時間利用可能な自習室、10階までの階層が全て蔵書に用いられているライブラリーセンターなどがあります。生活面では、KITランチをはじめとして、様々なメニューがある学食や、大学内のコンビニ代わりの売店である「アクア」などがあります。また、部活動やサークル、プロジェクトなど課外活動にも力を入れており、学生生活をより充実させてくれます。

「あなたの学校の**自慢**はなんですか？」

両校のここはすごい！というところをピックアップしてもらいました。

國立台湾成功大學

國立成功大學は台湾屈指の総合大学で、9学部、44学科、幅広い分野の学部や学科が開設されています。成功大學は台湾の南の都市、台南にあります。台南は台湾の京都とも言われ、文化に溢れる都市です。その他にも、成功大學では課外活動も盛んです。学生自身主催するキャンプや、クラブ、学生組織も多くあります。特に設立されたクラブの数は148あり、社会運動に関するものなど様々なジャンルが含まれています。

International 15th ~Anniversary~ Exchange

国際交流とは

NCKU × KIT
成功大學 学生会
金沢工業大学 学友会

国際交流とは、金沢工業大学学友会と台湾國立成功大學学生会との間で行われている交流企画のことを指し、今年でついに15周年を迎えました。

この交流では、両大学の学生による課外活動をさらに発展させるために学生組織間で協力関係を結び、交互に大学を訪問し定期的に交流を行っています。

交流内容として部活動の交流や両国の文化の違いについての意見交換を行う他、試合を行ったり、伝統工芸や伝統料理などを体験をしています。

これまでの国際交流にご支援いただき、今回で15年を迎えることができました。国際交流にかかわってきたみなさまのご協力に感謝します。

国際交流15年間の歩み

国際交流の15年間

Next Year

2016
2015
2014
2013
2012
2011
2010
2009
2008
2007
2006
2005
2004
2003
2002

2014

2014年、13年目の交流はNCKU側がKITに赴きました。NCKU側のテニス部、天文部、工芸部が交流を行いました。特色ある課外活動交流として、工芸部から編み物体験、本学からは加賀の伝統工芸の水引の体験を行いました。

2011

10周年を迎えたNCKUとの国際交流では、NCKU側に赴きNCKUの文化祭に参加しました。文化祭では日本の文化を台湾の方たちに知ってもらうために、鳥野菜味噌鍋の出店や折り紙の体験会などを行いました。クラブ同士の交流では両校の吹奏楽部が交流し、NCKUの文化祭ではオープニングでの演奏をしました。

オープニング演奏

模擬店の様子

2007

2007年にはKIT側が学友会をはじめとした学生代表と、空手部、剣道部、正伝長尾流躰術部の課外活動団体がNCKU側に赴き、国際武術交流会を行いました。お互いの技を披露したり、試合を行うなどして有意義な交流を行いました。

国際武術交流会

ウエルカムパーティー

2002

2000年11月に行われた『成功大學国際バスケットボールトーナメント』に招待された事がきっかけに始まりました。この年には2度の交流を行い、お互いの学校に赴き、クラブの紹介やクラブ同士の交流について話し合いました。